

第2回二戸市総合計画審議会 議事録(要旨)

1 日 時：平成27年8月5日(水) 午後3時～午後5時

2 場 所：二戸パークホテル

3 出席者(敬称略)

(1) 委 員

阿部 悦子、安保 公一、五日市 真一、遠藤 享、大久保 瞳、小野寺 幸司、加藤 聡、久慈 浩、黒澤 克子、柴田 清克、下館 光弘、平 裕一、永井 尚子、長葭 常紀、成島 英史、馬淵 貴尋、三角 壮一

(2) 市 側

市長 藤原 淳、副市長 戸館 弘幸、教育長 鳩岡 矩雄
総合政策部長 大沢 治、総務部長 田中館 淳一、市民生活部長 佐々木 建一、健康福祉部長 阿部 満男、産業振興部長 三角 正裕、建設整備部長 山下 謙二、浄法寺総合支所長 三浦 幸治、教育部長 樋口 敬造

(3) 事務局

副部長兼政策推進課長 石村 一洋、副主幹 泉山 茂利樹、主査 五日市 寿丸、主任 藤原 悠治

4 会議の概要

1) 開 会

2) 市長あいさつ

今年は暑い夏になっている。消防署に問い合わせたら熱中症が出ていないとのことだった。

二戸市は緑が多いし、農家の方はお昼休みを取っているのもそういう部分もあるかもしれない。

各団体やいろんな職種の方と意見交換を行った。

中高生とも意見交換を行ったが、素晴らしい意見を持っていた。

自分たちはここにいたい、出ていかなければならない。帰ってくる場所を作りたいという発言もあった。

こういう内容は資料にも載っている。意見交換をして良かったと感じている。

これから各種団体等の意見をまとめながらどういう風にまちづくりに活かしていけばいいのかという議論をしていただきたい。

中山間地域の中にあって、県南地域や青森県等のように広い農地を活かしながらやっていくことができない、大学もないということもあるし、限られた職種しかない。

本日は、皆さんからご意見をいただきながら、一步一步完成に近づけて参りたいと考えているので、よろしくお願いたしたい。

3) 議 事

○会長

本日は2回目の審議会となる。よろしくお願ひする。

この暑さに負けないような熱い意見が出ることを期待したい。

何でも遠慮なくいろいろ発言いただくようお願いしたい。

それでは議事に入る。議事(1)住民意見の集約状況について事務局から説明をお願いする。

(1) 住民意見の集約状況について

【資料の説明（石村課長が内容説明）】

○会長

事務局から説明がありました。

これまで、住民の皆さんと意見交換しながら二戸市の将来についてご提案をいただいていたことである。

30年後の将来像については、暮らしやすい、住みやすい、楽しいなどのイメージが出されているようだが、委員の皆さんからは、そのような将来像を実現するために、これから5年、10年どのようなことをしていかなければならないのか、何を重点として考える必要があるのかなど、積極的にご発言いただきたい。

まずは、実際にワークショップや意見交換会に参加した委員もいるので、ご意見やその時にお話できなかった感想などをお聞きしたい。

【主な質疑・意見】

○委員

ワークショップは青年会議所として参加したので福岡・石切所地区に出席させていただいた。

その中でのグループの様子は、職員のほか、農業、保育士やスポーツ関係など各分野の方々が集まっていた。

簡単にお話すると、視点が変わると意見も変わるというのが率直な意見である。

資料を見ていただいても分かるように様々な意見が出されている。

青年会議所としても市長とお話しする機会があつて思ったことだが、市役所や行政がやってきたことが頭にない状態での意見交換だと、具体的な実現ができるのかどうか分からないので、各々が考え、この中でも一つでも実現できるよう話し合いがされた。だからこそ、そういうものが望まれているという意見も出された。

ワークショップの機会は、様々な団体等が参加して話し合う場であり、私も参加できて感謝している。

○委員

福岡・石切所地区のワークショップに参加させていただいた。

アイデアは皆さんかなり出していた。紙に書いて意見をまとめたもの以外にも印象的なものがあった。

例えば、私は、市民文士劇の事務局長ということで参加させていただいたが、現時点でつながりつつある文化活動に対して、九戸政実のまちおこしをやっているというお話をしても、知らない人が3分の1いる。

こういう問題を抱えているというお話をしても市民同士が知らない。そういうことをすごく感じた。

例えば問題を解決しようとして誰かが書き込んだとしても、その問題について理解できない人にとっては絵に描いた餅で、具体的にどうすれば解決できるのかというようなプランニングができない。

情報発信は、いいことだけを発信して二戸市のいいところを言い続けるよりは、ダメな点、困った点、誇れない点があります、だからみんなで一緒に考えましょうというような内向きのしっかりした情報発信もしていくことが必要ではないかと思う。

いいことだけでなく、困っている事も発信しないと手助けしてくれない。

計画を作るために皆さんの意見が必要だと言っても、1人ずつ大きな視点では参加していないと思う。

こういう責任ある立場の方たちで意見をまとめる場を作っていただいた市に感謝する。

○委員

意見交換会で各グループに分かれてテーマごとに話し合いをした。

私たちは、都市住民の受け入れをどうしたらできるかということについて話し合った。

皆さん共通して抱いていたのが、二戸市の玄関口である二戸駅周辺や主要観光地の金田一温泉がさびれている。来た瞬間にさびれているという印象を受けてしまう。外から来た人も残念に思ってしまう。住んでいる市民も誇りに思えない、自慢できないというのが共通意見であった。

また、馬仙峡など眺めがいいところがあるにも関わらず、ゆっくり見られるスポットがない。お金をかけずにちょっとした東屋でもいいので、ベストポジションがあれば、そこで写真を撮ってフェイスブックなどで拡散してくれるので、そういうスポットを作るのがあるのではないかというお話があった。

金田一で言うと、金田一温泉駅から温泉まで歩いて行けない。そこで、ホテル金田一から緑風荘側に向けて橋があればいい。でも道路だと金がかかるので、歩く人だけ使う吊り橋でいいのではないかと意見が出た。

二戸駅周辺は、せっかく店はある、開いていないだけで。その開いていないお店を若いやる気のある人に安く、タダで貸して、まずは好きなようにやってみなさいということからチャレンジショップをやってみたらどうかという意見が出て、そんなにお金をかけなくても良くなっていく要素はあるなと感じて、話しているうちに楽しくなってきた。

○委員

ワークショップ、意見交換会には出ていないが、このような場では市内の方の意見が集まっていると思うので、私から見た最初に二戸にくる前の印象、来てからここが惜しい、ここがいいなというお話をさせていただく。

二戸市って何があるのと言われてもピンと来なかった。ただ、南部美人は弘前で梅酒を飲んでいておいしいお酒だと思っていたし、東京のギャラリーで浄法寺漆を見て一目ぼれして買っていたので、物として二戸の物は知っていたが、それが二戸市の物として知ったのは地域おこし協力隊として二戸から募集が出ていた時だった。

釣りでも安比川に来ていたのでかすっていたし、二戸に来ていた。市内には地域おこし協力隊の面接で初めて来たが、駅前がびっくりした。都市部はみんな電車を使うので駅前が一番栄えているところになる。二戸駅前がすごくさみしい雰囲気、シャッター街で、最初に来た人はこれが二戸なのかということで都市部の人か思ってしまう。

しかし、中に入ってみると、街中は駅から離れたところにあったり、大きいお店もあったり、実際に住んでみるとすごく暮らしやすい。

私が好きな自然も身近にあって、空気もきれいで、水もおいしくて、普通に暮らしていく分には仕事さえあれば住みやすい地域だと思う。母にも言われたが、東京からでも便利な場所で、新幹線で2時間45分でいけるということで、変な関東に住むよりはずっと近い。ものすごく地の利がいい場所だがそういう魅力が伝わっていないと思う。

色んなところ地域外の人とお話をしていくと、私を通じて二戸を知ってもらおう方が出てくる。二戸に住んでいた人たちが二戸についてどれだけ語れるかというのが非常に重要だと思っている。ブランド価値を高めるためには、知っている人から聞いたことは信憑性があると思うので、じわじわの戦略も必要だし、お金をかけた広告も必要だと思うが、情報発信が二戸の方は下手だなと常々感じている。そこが惜しいところだと思う。

○委員

元々二戸市の出身ではなく、二戸市に来て10年くらいになる。

ワークショップのまとめはいいポイントをついて、二戸の産業とかよく見ていると思う。

縫製関係やニワトリ産業との付き合いがあるが、地場の産業があるのに外へのアピールが足りない

と話される。

アパレル関係ではイベントを開催しているし、ニワトリについては取り扱っているお店もあるが、外からお客さんが来た時に地元の焼き鳥を食べたいとなっても大きい看板を掲げているところが少ない。お酒とリンクするとかいいお野菜とか、盛岡だと地産地消のちょうちんがあつたりしてPRしているので、飲食店でも二戸をPRする取り組みが必要ではないかと感じている。迎える側でもお客様に知ってもらいたい。

私は個人的にアウトドアが好きだが、施設的に使いにくいところがある。

今時期はキャンプなどがピークだが、折爪岳などでもあるものをさらに活かしていったらいいのではないか。

今回は様々な意見があつて、これを各課で振り分けながら、優先順位をつけ、できるものからやっていくことが必要である。

各団体や地域からの意見の振り分けを、期間を決めて整理し、これから各課でやっていくタイムスケジュールを組み立てていくと思うので、それを見ると審議会でも進んでいると分かる。

○委員

資料を見て働く場が無いという意見がすごく多いと感じた。

働く場を探すのも大事だが、起業するというのも一つの手段だと思っている。

起業しやすいまち二戸を売りにし、専門分野は関東とかの大学で学んでもらって、知識を持ち帰り地元二戸で活かしていけるまちづくりも素敵だと思う。

起業しやすいように、教える人、伝える人の人づくりも大切だと感じる。

6月に金田一温泉の第1回温泉コンシェルジュに参加して、認定書を受けてきた。なぜ、日本初の温泉コンシェルジュが金田一温泉かと講師に聞いたら、温泉で働いている皆さんのパワーがありその熱心さに押されてやることになったというお話だった。

参加者は、関西から北海道までいたが、温泉が好きという人が多かった。温泉は好きなものの一つだと思う。

温泉コンシェルジュは、泉質や地域の良さを勉強して発信するところまで、知識を人に伝えるまでが役目ということなので第2回、3回と続けて欲しい。

○委員

皆さんが現状と課題を同じように認識しているのは分かったが、これは、10年前と変わっている課題はあるのか。10年前から変わらなかった課題ではないかと感じる。

これは、今の問題というよりも、以前から解決できない課題ではないかと思う。当時との違いが分かれば教えていただきたい。

○市長

人口減少はずっと起きてきている課題である。もう一つは県南、県北の所得の格差是正は昭和50年代から取り組まなければならないと言われてきていて、企業誘致などに取り組んできた。

所得については、一時は1人あたり200万を目指していたがなかなか越えることができなかったが、おとしに震災関連事業などの影響で200万を越えた。所得が上がったから豊かさにつながったかというところでもないと感じる。

10年前は、新幹線が通って3年くらいの時期で、バイパスの整備や、下水道事業、区画整理についても荷渡地区、駅周辺地区、街路事業は落久保の電線地中化など建設事業が伸びた時期であった。

何が変わってきたかというところ、県北地方が持っている課題は解決できないし、今後10年を見ても男子型企業は誘致できないと思う。

こういう中で何を伸ばしていくのかということ考えたのが今である。

農業では、1個2,000円のりんごをどうやって増やしてレベルを上げて行いくとか、通年型の農業でどうやって所得を得ていくか。忙しいだけでなく、所得を得られるようにしなければならない。

アパレル産業も、蛇沼さんの羊の牧場からの流れがあり、今はファッションショーもやっている。なぜ賃金が安いのかという課題があり、どうしてもデパートやメーカーなど多くの人が手をかけることになるので、東京の学園と一緒にデザインをやるということで賃金にもつながらずではないか、そうすると働きたいという人も出てくるのではないかということで取り組んでいる。

南部美人は人口が減ると、飲む人が減ってくるということで外国 24 カ国に海外展開を行っている。

こういう社会環境が変わった中で産業の振興が進められてきている。

行政として見ても、カシオペア連邦の中での働く場を作ろうという意識がこれからもっともっと進んでくる。

一戸が陸上競技場、軽米が野球場を作った。二戸でも作るかということではなく、道路を整備して利用しやすくするとか、二戸の水は少ないが、奥中山は豊富にあるので、電子企業などはそこに集積していくとかそういう方法を考えていかなければならないのかなと思う。

10年前と何が違うかということ、個々の物を見直すことなく進めてきたが、これからは見直しながら磨きをかけて進めていくことだと思う。

○会長

今のご質問が、次の(2)の議題でも取り上げられることになっているので、(2)の説明をお願いします。

(2) 人口ビジョン及び総合戦略について

【資料を説明(石村課長が内容説明)】

【主な質疑・意見】

○委員

進学率が高くなり、子どもの数が少なくなっている中で、若い人の就労の確保がどこの企業も厳しくなっている。

無いものを作っていくということはエネルギーもお金もかかる。

市長からもお話があったが、わたし達もデータを見た場合に、県北と県南の格差がある訳でもない。二戸で働いている人は、誇りを持って働ける、そういうことを働く人もそう感じていく必要がある。二戸には職場がないということではなく、求人倍率も低くない。

こういうことを考えた場合、企業のPR、企業の発信する力、まちの発信力が総合的に問われてくる。こういうことを我々がやらなければならないことである。

一方で、将来の子どものことを考えると、意見交換会をやったことは素晴らしいことだと思うし、中学生高校生が地元に対して誇りを持てるようにキャリア教育と連携していくような取り組みができればいい。

課題として、地域の問題解決に取り組みましょうとか、学校の時から地域を意識したようなことができれば楽しいのではないかと思う。

企業の課題もある。例えば、大卒者を雇用した場合の給料の問題などもあるが、そういうことを企業側も理解して、二戸で働くことが誇りであると持てるような取り組みができればいい。

○副市長

県内市町村はどこでも同じ課題を持っている。

行政が税投入して、いろんな施設を整備して、それが地域の豊かさにつながっていくという発想は通用しなくなっている時代である。

今の人口動態を見ると、縮退のまちづくりをどう進めるかという思想が必要だと思う。

地域に住んでいる人が便利と感じるまち、大きい公共施設を整備しなくても自然の豊かさなどを感じられる、コンパクトなまちが必要である。

10年前と何が違うかという、ほぼ変わらない。持っている課題はずっと同じものである。

この間、足りないのは民間の力をどう發揮してもらうのかという視点を持ちきれていなかった。

税金を使って何かやれば豊かになるというような考え方から抜けきれていない。地域の財力を増やすのに行政ができることは限られている。

起業できる基盤、チャレンジしやすい基盤、投資しやすい基盤をどれだけ作っていくのかという所に力を入れていったらいいのかなという気がする。

人口が減る原因は、色んな意見が出ているが、こうなったらいいなという意見はいっぱい出ているが、なぜ減っているかという、たぶん雇用と所得しかない。

働く場を求めて外に出ていく。その流れを変えるためには、どうやってこの地域で外貨を稼ぐのか、そして、その得られたお金を、地域の中でいかに循環していくかということを考えていく必要がある。

世界にお酒を売って外資を稼ぐ、一方で原材料として地元のお米を使うことをやっている企業があるがそういう取り組みが必要である。

知らないうちに外にお金を逃がしている部分がある。

○教育長

教育委員会では人口減少に対応できることは限られている。

今の子どもたちが親になった時に、今思うと二戸の学校は良かった。先生もやさしく分かりやすく教えてくれて良かった。できれば自分の子どもも二戸で育ててみたいと思ってもらえればいいなということで学校の先生方には頑張ってもらっているし、出来る限りのサポートはしたいと考えている。

意見交換会でも、子どもたちに今一生懸命勉強することが将来的にみんなが二戸に帰ってきたいという思いにつながるので、皆さんの力で学校を良くすることが長い目で見れば二戸にとってとてもいいことだというお話をした。

夏休みに入ったが、東京学芸大学との連携もできたので、市内の先生4人を大学の講座に派遣して研修している。また、今週月曜日から学芸大学の学生13人が陸前高田市から北上し、大槌、山田、宮古と復興について学んでもらい、昨日から県北青少年の家に泊まっている。

今日から小中学生に対して勉強会を手伝ってもらっている。今日覗いてみたらいい雰囲気やっていた。市教委はバスでの送迎を行っているので、遠くの学生も来ることができる。

岩手県が1人、あとは県外から来ている。被災地を学習して、岩手県でこういうことを勉強したなという思いを持って、全国に散らばってもらえればお役に立てたと感じることができる。

一番大事なことは子どもたちの安全安心を守ることが何よりも大事な仕事である。そういう思いを持って教諭になってもらいたい。いずれ、賢い親になってもらいたいという思いである。

今年は、図書館は連日満員で、冷房が追い付かない状況となっており、汗をかきながら勉強している。できればサテライト学習のように図書館行きのバスの運行ができればいいと思う。

○委員

ワークショップをやって地域の意見を幅広く聞いたのがとても良かったと思う。

できれば、この総合計画に目玉として載るようなものを選んでいただいて、作ってもらえればいい。

これから住民意識調査もあるようなので、ぜひ、いろんな意見を聞いて原案に活かしてもらいたい。

資料3のグラフ1で人口の推移が出ている。この表で、岩手県との比較なども入れると二戸の率も分かるようになっていいと思う。

これから人が減っていくのは間違いない。高齢者が増えてくる。

高齢の人が元気でいられるような施策をやっていく必要があると思う。施設に入らないで住み慣れた地域で暮らしてけるように、訪問介護とか、旧川井村で高齢者の家にパソコンを置いて、状況を把握できるシステムをやっていた。ITを活用して高齢者が地域で生きられるようにして欲しい。

女性の起業も進めてほしい。女性1人に対して男性4人が付いてくる。女性の定住施策を作ってもらいたい。

盛岡市は自宅での女性の起業を勧めている。地域の中で生活しながら起業できるようにやっていく必要がある。

企業誘致も大事だがなかなか難しい。実際に無理である。

中で足りないものを課題として出してやっていく必要がある。

りんごが特産という話だが、おもしろりんごを見たことがある。弘法大使の像をりんごに描いたものを弘前の人が高野山に持ってきていた。

例えば、寂聴さんの似顔絵をりんごに描いてもおもしろいかもしれない。

(3) 今後のスケジュールについて

【資料の説明（石村課長が内容説明）】

○委員

5月に日本総研が簡易調査を行った。岩手県出身者で現在宮城県または東京都に在住の方。年代は20代から40代。雇用条件は現在正社員の方。

将来岩手県戻りたいかという問いに対しては、6割が戻りたい。魅力的な雇用条件を整えたいということである。

これまで岩手県内に戻ることを考えたタイミングはどのような時か、37%が就職後10年だった。

岩手に戻る場合どのような要素を重視するのか、やりがいがある仕事が36%。

賃金がどの程度改善されれば岩手に戻ることが可能か、現状維持また10%未満が7割。

やりがいのある仕事とは、38%が全国、グローバルを相手にする仕事。

今回の参考にしていただければありがたい。

(4) その他

なし

5) 閉会